

# 9月

## 新着本の紹介



青字は児童

書名	著者名	内容
青瓜不動 三島屋変調百物語九之続	宮部 みゆき	行く当てのない女達のため土から生まれた不動明王。悲劇に見舞われた少女の執念が生んだ家族を守る人形。描きたいものを自在に描ける不思議な筆。そして、人ならざる者たちの里で育った者が語る物語。恐ろしくも暖かい百物語に心を動かされ、富次郎は決意を固める。
可燃物	米澤 穂信	余計なことは喋らない。上司から疎まれる。部下にもよい上司とは思われていない。しかし、捜査能力は卓越している。葛警部だけに見えている世界がある。群馬県警を舞台にした新たなミステリーシリーズ始動。葛警部の鮮やかな推理が光る5編。
こぼれ桜 摺師安次郎人情暦	梶 よう子	精確で優れた仕事ぶりから、「おまんまを喰いっぱぐれる心配がない」とついたふたつ名は『おまんまの安』。摺師・安次郎は、信太を引き取り、神田明神下の長屋に父子二人で暮らしていた。そんなある日、共に切磋琢磨してきた彫師の伊之助がお縄になったという……。江戸の人情が深く染み渡る、あたたかく切ない傑作時代小説。
八月の御所グラウンド	万城目 学	京都が生んだ、やさしい奇跡。女子全国高校駅伝——都大路にピンチランナーとして挑む、絶望的に方向音痴な女子高校生。謎の草野球大会——借金のカタに、早朝の御所G（グラウンド）でたまひで杯に参加する羽目になった大学生。京都で起きる、幻のような出会いが生んだドラマとは——。
むかしむかしあるところに、死体があってもめでたしめでたし。	青柳 碧人	一世を風靡したといっても過言ではない、日本の昔ばなしをミステリーで読み解いた『むか死』シリーズの最新刊にして最終巻。あっと驚くミステリーのもとになった昔ばなしは「こぶとりじいさん」「耳なし芳一」「舌切り雀」「三年寝太郎」そして「金太郎」——いずれも趣向に富んだ、これまでの作品に勝るとも劣らない作品集。
十戒	夕木 春央	殺人犯を見つけてはならない。それが、わたしたちに課された戒律だった。里英は、父と共に、叔父が所有していた枝内島を訪れた。不動産会社の社員が殺され、そして、十の戒律が書かれた紙片が落ちていた。この島にいる間、殺人犯が誰か知ろうとしてはならない。犯人が下す神罰を恐れながら、「十戒」に従う3日間が始まった。
ウェルテタウンでやすらかに	西尾 維新	推理作家「私」のもとへ現れた、不審な自称「町おこしコンサルタント」の男。彼は「私」に、町おこしのために小説を書いてほしいと依頼する。小説の力を利用して、寂れゆく町・安楽市を自殺の名所にしたいと囁くのだ。承諾した「私」だが、密かにその計画を阻止することを決意する。なぜなら安楽市は、「私」の故郷なのだから——。

リトルブルーまちへいく	アリス・シャートル	リトルブルーが都会へやってきました。初めての都会に驚くブルー。車たちは皆急ぐあまり、乱暴だったり、ルールを守らなかったりします。街が渋滞する中、市長さんを乗せたリムジンが立ち往生して…。さあ、ブルーはどうする？ 田舎のトラックが都会で、初めての冒険をします。
-------------	-----------	---

## 【お知らせ】

月刊誌も配架しています。ぜひ、ご利用ください。

■NHKテレビテキスト「囲碁講座」 ■「すてきにハンドメイド」

■「ESSE」

